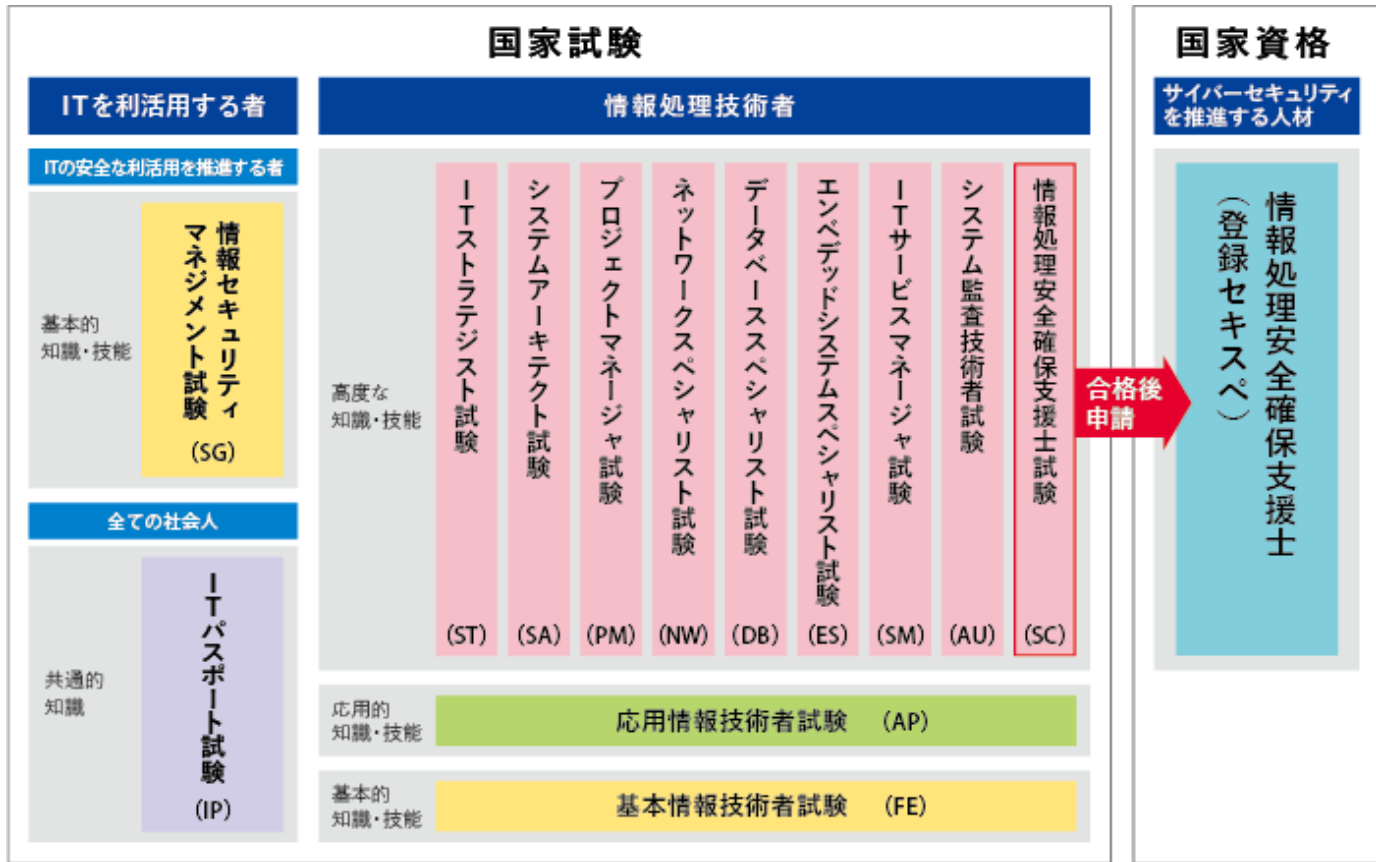


情報処理技術者試験の見直しについて（検討案）

2026年1月時点の検討状況

試験概要

- 情報処理技術者試験は、「**情報処理の促進に関する法律**」に基づき、デジタル人材の能力が一定以上の水準であることを認定する**国家試験**。
- 情報システムを構築・運用する「技術者」から、利用する「エンドユーザー」まで、**幅広いデジタル人材を対象に、デジタルに関する知識・技能を客観的に評価し、人材育成・確保に貢献**。



※国内最大級の国家試験として、2024年度は、年74万人応募、合格者25万人。

※情報処理安全確保支援士試験は、再編対象外。情報処理技術者試験において、高度試験区分は、ITストラテジスト試験、システムアーキテクト試験、プロジェクトマネージャ試験、ネットワークスペシャリスト試験、データベーススペシャリスト試験、エンベデッドシステムスペシャリスト試験、ITサービスマネージャ試験、システム監査技術者試験の計8区分。

※パソコンを利用して実施するCBT（Computer Based Testing）方式に、全試験区分が2026年度より移行予定。

※試験の詳細は独立行政法人情報処理推進機構のホームページを参照：<https://www.ipa.go.jp/shiken/about/gaiyou.html>

試験見直しの背景

- D Xの推進に必要となる**データ活用やデジタル技術は進化**しており、これに対応するスキルも変化。この**変化に柔軟に対応するためには、「土台」となる幅広いスキルを身につけることが必要**。
- このため、**情報処理技術者試験**は、スキルの変化に柔軟に対応するため、幅広いスキルを身につけ、スキルベースで評価するための**試験体系に見直しを検討**。**2027年度開始を目指す**。

見直しのポイント（案）

データマネジメント試験（仮称） 新設

A I を活用するためには、データを活用可能な状態に整備・管理する必要があり、このスキルを習得し、評価するための新たな試験を創設。

応用情報・高度試験 再編

「土台」となる幅広いスキルを身につけるため、応用情報技術者試験と高度試験をマネジメント・監査、データ・A I、システムの3領域に大括り化し、3試験に再編。3領域の習得を推奨。

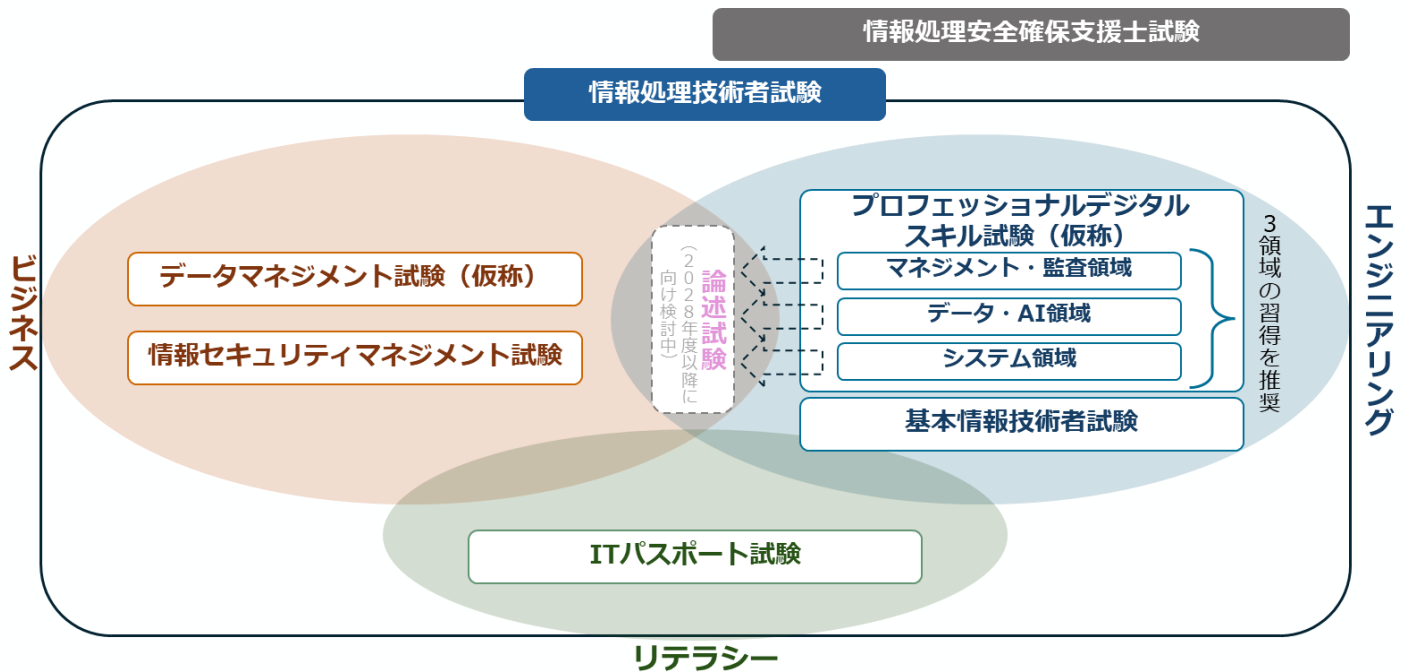
ITパスポート試験 最適化

全ての人の変化を敏感に捉えられるようにDXのマインド・スタンス、データマネジメントの基礎に関する出題追加、AI時代に対応した倫理の出題強化など。

試験実施方法 変更

応用情報・高度試験は、見直し後の試験をCBT方式に適した出題方式へ見直し。論述試験のあり方は、2028年度以降に向けて継続検討。

試験の見直しイメージ（検討案）



【説明会の開催】

当該試験を活用している法人を対象に、見直し内容についてのオンライン説明会を2月と4月の計2回開催します。それぞれ、開催日時点における検討状況の説明となります。

このため、4月開催の方が詳細な内容になる見込みです。お忙しい場合には4月の回にご参加ください。

第1回：2月26日（木）13：30～14：30

第2回：4月23日（木）13：30～14：30

申し込みアドレス：<https://mm-enquete-cnt.meti.go.jp/form/pub/syomu-riyousokushin/nsmsg3rtz2w47>

<お問い合わせ先>

【試験制度について】

経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課 デジタル人材政策室

お問い合わせアドレス：bzl-digiskills-inquiry@meti.go.jp

【試験実施について】

独立行政法人情報処理推進機構 デジタル人材センター 人材スキルアセスメント部

お問い合わせフォーム：<https://info.ipa.go.jp/form/pub/inquire/itee>